

南半球の生食用ブドウが引き続き輸出をリード

FreshFruitPortal 2023年6月30日

情報サイト [Topinfo](#) の最近の分析によると、ブドウは引き続き南半球の代表的な産品であり、ペルー、チリ、南アフリカが引き続き世界の3大主要輸出国である。北半球市場の消費者の傾向や嗜好の変化への対応能力が同セクターを成功に導き、種なし品種と権利関係のある品種への変更が重要な役割を果たしている。北半球の冬の間、バイヤーに新鮮で魅力的な産品を提供し続けるための物流上の課題にも対応できた。

南半球は出荷先を多様化することにも成功した。当初、主な市場は米国であったが、そのシェアは南半球の出荷量の3分の1にまで減少した。ヨーロッパと極東が徐々に重要な市場となり、近年では南半球の出荷量の4分の1を占めている。中南米諸国、カナダ、中東諸国も南半球産ブドウの良い輸出先になりつつある。一方、ロシアは、ウクライナとの戦争に起因する貿易紛争の結果、市場としては衰退した。

さまざまな輸出国の重要性に大きな変化があった。このビジネスの先駆者であり、何十年にもわたって絶対的なリーダーであったチリは、世界最大の輸出国としての地位を今年初めてペルーに譲った。ペルーは2022-23年度に約60万トンを出したが、一方チリは50万トンに留まった。近年の悪天候、作物の更新、及び強力な品種の転換により、チリの潜在的輸出能力が低下した。

南アフリカも2023年には悪天候に苦しんだ。収穫期間中の大雨は、輸出を制限し、困難にした。生食用ブドウは、極端な気温だけでなく、過度の降雨や湿度にも非常に敏感である。

チリ、南アフリカ、ブラジルは、この2022-23年度の輸出量が前年度比で16~20%少なかった。前シーズンより12%多く輸出することができたペルーだけが引き続き輸出量を増やした。ペルーの輸出量は約60万トンで、わずか7年間で輸出量を倍増させた。ペルーの増加は他の国の減少を補いきれなかったため、南半球の総輸出量は2021-22年度に達成した最高記録の154万トンを8%下回った。

事実上すべての主要市場の輸入量が前シーズンをわずかに下回った。この出回り量の低さにより、市場の需給バランスが改善し、良好な価格水準を維持することが可能となった。

トルコ サクランボ価格の下落傾向が予想される

FreshPlaza 2023年6月30日

トルコの青果物生産・輸出業者アナフルーツ社の営業販売部長であるヤフヤ・エルドアン氏は、トルコのサクランボは出荷の最盛期だが、需要は地域によって異なると言い、「シーズンの初めから、トルコ産サクランボに対するヨーロッパ諸国からの需要は強かったが、極東地域の需要は前年と比較して予想よりもやや低い」と述べた。(以下「」は同氏の発言)

同氏によれば、サクランボの価格はこの3~4週間安定しているが、来週から変動する可能性がある。「今シーズンのさくらんぼの価格に関して、これまで驚きはあまりない。これまでのところ状況は非常に安定しているが、来週はわずかに下降傾向になると予想しており、トルコ産のサクランボについて新たな照会を行う輸入業者にとってはプラスになるだろう。」

トルコのサクランボの出荷量は今シーズンかなり多いと同氏は説明する。「出荷量を見ると、今シーズンは間違いなく増えている。今週以降の天気予報は良好なので、十分な出荷量でより良い影響が見られることを期待している。」

出荷シーズンの終わりはすでに見えているが、同氏はさらに5~6週間続くと予想している。「収穫期間中の素晴らしい天候のおかげで、現在のサクランボの品質は非常に良い。出荷は8月の第1週か第2週まで続くと予想している。サクランボの季節をうまく終え、その後のリンゴの季節を迎えることを期待している。」

執筆者: ニック・ピーターズ